

快

感經驗

・二

〜奉世快樂〜



東方Project Fanbook
for adult only

今日は食事の後から、身体の調子がおかしかった——



火照って仕方がない——
身体中がしても熱い——

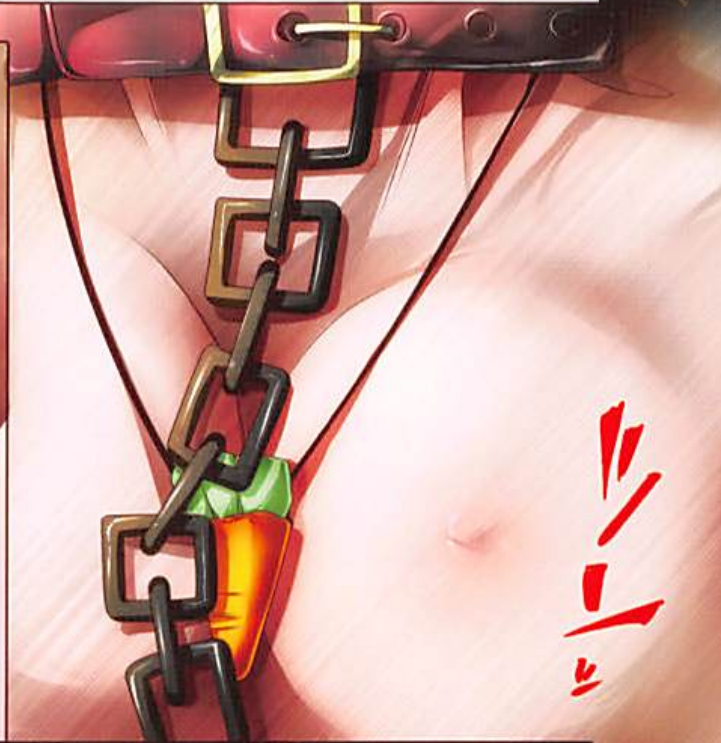
あつ

んうっ

あつあつ

あつあつ

あつあつ



あつあつ



衣擦れすら苦しくて
このままじゃいけない
このままじゃ……またあんなことをされたら——

やだ 手が勝手に
——我慢できないっ

フフ……

順調に効果が出てきたみたい
じゃないか
今日は今までにない快楽を
味わわせてやる……

あつあつ
わたしの身体
おかしく
なっちゃった……

あつあつ



あつあつ



卑怯者っ！

さよ——

そんなっ！

今までの行為と同じ目に遭うことになるぞ

私の言うことを聞かないとお前の大切な友人が

フフ……そんな事を言ってもいいのかわ？

そんなの——っ絶対にイヤ！

さあ まずは胸を使ってこいつをしごいてもらおうか

ザッ
ハッ



逆らいたび

逆らえない

ひっ
あぁっ……

んっ

こんなのひどすぎるよ……

うう……

……鈴仙が標的に——

ふふ
十二分に乳首が立ってるじゃないかこの淫乱鬼め

こ、これはっ
あなたが変な薬を混ぜた所為でしょう！

はっ……
あぁっ♡

ゴッ
あぁっ♡

てみは初め恨めしそうにこちらを睨んでいたが、やがて何かをおきらめたのか、おすおすとその涼しい胸を使って肉棒をしごき始めた。行為に及びながら、時折わずかに錠の入った声を漏らしている。媚薬の効果で行為が深まるにつれ、てみの表情は次第にとろけていった。

——鈴仙

間違っても歯なんか立てるんじゃないぞそんな事したら分かつてるな？

よし、次は口を使え

はっ
んんう

ほうなかなか上手いじゃないか

んぐっ

わたし、ね

ほら出すぞ！
しっかり飲めませう

ひっ
うっ
うっ

頑張るから——

んんんっ！

命令されてからしばらくはついでにむようにキスをしていたが、てあはやがて肉棒を
啞え込むと、舌や舌を余すことなく使い堪能し始めた。
まるで愛しい者を含み込もうとするようにしゃぶり続けている。
てあは口内で出された精子とその臭気に驚き、口からこぼしてしまった。

全部飲むように言ったしやないか
言いつけを守れない淫乱鬼には
お仕置きをしてやらないとな

そ、そんな
あんなの飲めるわけ

あぐ……

や、やだ なに これっ
気持ちよすぎて 頭が
おかしくなっちゃう……っ

挿れただけで軽くイッた
みたいだな
まったく
とんでもない淫乱鬼だ

あぐ……

セクセクッ!!

んあぁっ
ガクガク

こ、これはっ
違うの！
こんなの……

いきなりの口内射精に咳込んでいるてあを持ち上げると、向かい合う姿勢で肉棒を
おじ込んだ。すでに濡れていた膣はすんなりと受け入れ、それだけでてあは
絶頂に達してしまった。
我慢できない様子で、てあはくぐもった なまめかしい声をこぼしている。



ドロオー

ひびい

ごめんなさい

んっ あっ
やだ あつ抜いてえ
えっ



ポポポ

さて、そろそろシメにとりかかるか

フッ

うっ……何これ……。ドロドロしてて気持ち悪くて、でもすぐに消えちゃった——

ピクッ!

——!? あっつ……体が——や、やだ、さっきより感じやすくなって……あつ、ま、またキちゃ——つ



腰が勝手に——
わたしの意志
なんかじゃないのに

もっど

っ

だだめえっ
もう何も考えられない
ただ もつと深く——
つながりたいよお

さあ お前の好きなように
奉仕してみせろ——

もつとお

揮発・皮膚浸透性の高い
特注媚薬の味はどうだ?
薄めるような心地だろうだろう

も
ピクッ!

ピクッ!

てみにふりかけた媚薬は、またたく間に消えていった。てみは先ほどよりも荒く息をし始め、ほおはかなり上気している。
とろけた表情で腰を振ろうとする彼女を制止すると、あなたは床に仰向けになった。するとてみはいてもたってもいられない表情で、あなたの上にもたがると、中々と肉棒を白らの秘部へと導いた。

は……あ
こんなの……
こんなの嫌なのに……

気持ちいいよお……

も……とお
もっと激しく突いてえー！

奥まで
当たって
ふああ……
ふわふわしてちゅわん

うわーくうん これ
いいのお
んうん
あ いい
ううん……

ふふ……いい顔だ
やつと素直になつたな
たっぷり可愛がって
雌として最高の快楽を
与えてやるッ！

てめはその体勢のまま、こらえきれない様子で自ら腰を動かし始めた。すでに我慢する様子もなく、思いのままに可愛らしい声でおえている。

奥の奥まで
犯し尽くしてやるっ！

ひあああああ
らめ……え

消えちゃう……
みんなが……消えちゃうよお

そんなものは忘れてしまえ

この快楽に溺れて
俺のこと以外考えられなく
なってしまうっ！

まじっ♡

さあどうしてほしいか
ねだってみせろ！

は……ひっ♡
くうん
気持ちいいの……♡
もっとうほしいよお……♡

んんっ ああ……♡
ご主人様……ご主人様の
モノでわたしのお股を
突いてくださいっ

ズン

キゅん♡

んああっ
や、やだ
もうキちゃう……
ああ……はっ……あ……

ゴックン♡

おめめ♡

あなたはめに肉棒を差したまま乱暴に起き上がると そのままでみを押し倒し、
熱く注挿を繰り返した。子宮を突くほど深く挿入すると、てめはだらしくなく
よだれを垂らしながら、打ち密せる快感に嬌声をおげで絶頂を迎えた。
てめは絶頂に達した後、光を失った目で声にならないうめきをもらしていた。

■体力が限界にきています。調教を終了します。

[てめの 従順のLvが上がりました 屈辱刻印のLvが上がりました]



■はじめましての方ははじめまして！
前作でお会いした方にはお久しぶりです！
サークル『しろくろま』のスキユウです。
この度は当サークルの本を手にとって頂き
誠にありがとうございます！

今回のイラストページはエロ絵が切れて
しまっているので、なんとか未出の一般
イラストで勘弁願います(´ω`;)
R18本なのに申し訳ない。

←はレミフラ絵。
フランを幽閉するシーンを描いてみました。
きっと幽閉に至るまでにいろいろな話
あるんだろうなあ……と妄想しながら。

←はややみょん。
刀が描きたかった！
幽々様はいつの間にかくっついてました(え
構図は豪華になりましたが、幽々様のアムが
鬼畜すぎて頭が禿げそうになりましたorz



■あとがき

今回はふんだんに媚薬を投与しています。
お昼ご飯に一回。調教中に一回。これであなたも一日元気！ハハハ
……何言ってるんだ私は(；´д`)

今回の大きな変更点といえば、まずはページの下に文字が入るようになったことでしょうか。
黒枠で領域を確保して、白文字でeratohe風の描写を入れてみました。
むしろ、一部本家から引用している部分もあります。あなたのパリアントとの違いを楽しむのも
……って、べつに本文中ではアレンジした文章を使ってるんだから、比べようがないじゃないか。

(´・ω´) (´・ω´) (´・ω´) (´・ω´) (´・ω´) (´・ω´) (´・ω´) (´・ω´) (´・ω´) (´・ω´) サラサラ

実はこの黒枠、失敗したなあと思ってます。
私(ってか多くの人?)の描き方だと、肝心のエロ部分(tntnとかおまん●とか)が下のほうに
きちゃうので、黒枠で消されてしまうのですね。かなり苦勞させられました。てかtntn普通に
消えてますね。アム(´p`)描いてはいるんですけどー！
あとフォント。せつたい読みにくい。メールとかで「読みにくいわこのボグ！」と言って下されば、
善処します。あのフォント好きなんだけどなあ……もうすこしますの多いフォント知らないでしょ
か。知っている方は是非連絡をお願い致します。報酬は次回の私の新刊でry

あと男がサリけなく喋ってます。
ずいぶん大きなことを言う割には早漏だったり媚薬に頼ったり、精けない奴です。
まったく誰なんだろうな。……え、なんですか、そんな目で私を見ないで下さい(*´д`*)

次回は夏コミ(C78)に参加予定です。今回は多少の経験値がないとやってくれない奉仕メニューを
選んでみましたが、次はレス……いや、触手……ウム、どちらにしようか…… 2010/02 スキユウ

原作:
上海アリス弦楽団様

発行日:2010/03/14
発行:しろくろうさ
責任:スギユウ
連絡先:yuu_819_as@hotmail.com
印刷:ねこのしっぽ様

HP(ブログ):<http://pixiv.cc/yuukke8/>
pixiv:<http://www.pixiv.net/member.php?id=97799>